

文教民生常任委員会 三重県鈴鹿市視察概要

鈴鹿市は、東に伊勢湾、西に鈴鹿山脈と恵まれた自然環境の中にあり、人口 196,542 人（令和 4 年 10 月 31 日現在）、面積 194.46 平方キロメートルのまちである。人口及び 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口割合は平成 22 年をピークに減少し、65 歳以上の人口割合が増加している。令和 4 年 9 月 30 日現在の高齢化率（人口における 65 歳以上の割合）は 25.7% であり、現在は近隣の市町村と比較すると低いものの、今後は大幅に高くなっていくことが見込まれている。

少子高齢化・人口減少社会の到来により、高齢者を取り巻く状況においては、介護保険制度の持続可能性や人材不足によるサービスの低下など、様々な課題が懸念されるため、鈴鹿市では高齢者福祉計画を策定し、地域の中で高齢者が自分らしく生きるまちづくりを目指している。計画では、在宅高齢者の療養及び介護を支援する「医療・介護の連携」と住民主体の「介護予防・生活支援」を両輪とした地域包括ケアシステム構築の推進を目標の一つとしている。

この目標達成のために、市では、地域において自立して生活できるように介護予防を進め、少しの手助けがあれば暮らしていける人への生活支援を進めることを目的に、令和元年度より地域介護予防活動支援事業を活用した補助事業である、暮らしまかせて支援事業を行っている。支援の対象は、地域住民が主体的に運営・参加し介護予防活動へ取り組み、お互いに見守りあうことのできる通いの場づくりや、地域の困りごとの解決に取り組む有償ボランティアによる日常生活支援の支え合い活動を行う地域づくり協議会である。また、支援の期間は 3 年間であり、その内訳は①立ち上げ支援（1 年目）上限 20 万円②運営支援（1 年目～3 年目）1・2 年目は 20 万円、3 年目は 10 万円である。3 年間の支援終了後も、介護保険の訪問・通所型サービス B へ移行すると、訪問型は 10 万円、通所型は 10 万円、合計すると最大 20 万円の運営費用を毎年継続して受け取ることができ、地域の支え合い活動は切れ目のない支援を受けることが可能となっている。

本事業の取り組み状況は、全 28 地区の地域づくり協議会のうち、実施中の地区が 7 地区、令和 4 年度中に実施予定の地区が 3 地区、地域介護予防活動支援事業終了後に訪問・通所型サービス B へ移行した地区が 1 地区である。特に、稲生地区の稲生助け愛ネットは、本事業開始前から地域独自の生活支援を検討していた背景もあり、活発に地域の支え合い活動を行ってきた。令和 3 年度実績は 443 件であり、活動内容及び利用料金は、病院や買い物への付き添い支援（30 分 300 円）、庭木の伐採や草取り（30 分 300 円）、ごみ処理場までのごみの運搬（粗大ゴミ出し支援は 1 回 100 円、リサイクルセンターの運搬に関しては、別途料金が必要）が主であった。現在は、訪問・通所型サービス B へ移行し、地域の支え合い活動を継続している。

そのような地域の支え合い活動の普及には、社会福祉協議会の委託職員であるコーディネーターが大きな役割を担っている。コーディネーターは、市全体を担当する第 1 層生活支援コーディネーターが 1 名、日常生活 8 圏域を担当する第 2 層生活支援コーディネーターが 4 名（1 名が 2 圏域を担当）であるが、地域づくり協議会の会議へ参加し、日頃から地域と深く関わることにより、実態に応じた生活支援サービスの立ち上げをサポートしている。また、活動を発展させていくために、地域づくり協議会を対象としたフォーラムの開催、活動状況を取りまとめたチラシの作成による他地域との情報共有などを行っている。一方、地域づくり協議会は回覧板や住民への声かけなど、支援会員を集めるための活動も行っている。

文教民生常任委員会 愛知県豊橋市視察概要

豊橋市まちなか図書館（以下「まちなか図書館」という）は、三つある市立図書館分館の一つとして、市の中心である豊橋駅から徒歩5分の市街地に令和3年11月に開館した。

開館までの経緯は以下のとおりである。

平成18年3月	豊橋市図書館整備構想を策定 →豊橋駅東口地域に新たな図書館の整備を目指す
平成26年3月	第2期豊橋市中心市街地活性化基本計画を策定 同計画に豊橋市まちなか図書館（仮称）整備事業を位置づける →中心市街地に一層のにぎわいを創出し回遊拠点としての機能を高めるため、交通利便性の良い駅前に幅広い年代の市民に利用される施設として図書館を選択
平成28年3月	豊橋市まちなか図書館（仮称）実施計画を策定 →図書館のサービス、施設整備、管理運営等の内容を整理
令和3年11月27日	開館

まちなか図書館の窓口業務やフロア業務などの定型業務は、プロポーザル方式で選定された株式会社図書館流通センターに委託している。定型業務を委託することで、特集棚の設置、選書やイベントの企画運営など、司書が本来注力すべき図書館の基幹となる業務に取り組むことができている。

また、再開発ビルの2階、3階を区分所有しており、他のフロアには民間のレンタル会議室やオフィスのほか、住民票など各種証明書の交付が受けられる市の窓口センターがある。複合施設であるという利点を生かし、同じビルに入居している企業や施設と連携したイベントを開催している。施設全体での集客効果により、中心市街地での通行量調査結果においては、歩行者の増加が確認された。

「ひとつつながり、まちとつながる」をコンセプトにしており、前述の同じビル内の企業や施設だけでなく、大学や周辺の商店街などと連携したトークイベントや企画展示などを実施することで、知識や情報の発信・交換の場としての交流機会を提供している。配架面では、図書館で広く採用されている日本十進分類法によらず、書店のようにテーマ別に配架したり関連するテーマを近くに配架したりすることで、新たな本と出会う機会を提供している。

また、図書館内にカフェが併設されていたり、学生同士が勉強を教え合えるスペースがあるほか、館内のどこでも自習ができるように机が多く設けられていたりしており、多くの図書館で禁止されている飲食や会話、自習をしながら過ごすことができる。

飲食や会話ができる点では、堅苦しくなくてよいとの良い評価がある一方、館内ルールや利用マナーの違反が見受けられることもあり、職員による館内の巡回強化や注意喚起など一定の対応が必要となっている面もあるが、今年度を実施した利用者アンケートでは100点満点中平均87.5点と他の市内図書館よりも高評価を得ている。

まちなか図書館では、これまで図書館の利用が少なかった学生などの若年層や、30代～40代の来館者が多く、性別や年齢を問わず幅広い世代が利用している。開館以来1日当たりの平均来館者数は1,800人を超えており、今年9月には累計来館者数が50万人を突破するなど、中心市街地の新たなにぎわい拠点となっている。